

# ICT実践レポート

作成者（大垣市立東中学校）

氏名（今西賀寿真）

学年	第1学年
教材	「平面の図形」大日本図書 教科書P194, 195「図形の移動」ほか
活用したアプリ	・ミライシード 「オクリンク」 ・Google Meet ・Google Classroom
活用したICT機器	・iPad（教師用・生徒用） ・大型テレビ
活用の実態	<p>・個人追求での使用。</p> <p>作図や図形の移動の際に、作図が苦手であったり、平行線を引くことに苦手意識があったりする生徒が多くいたため、黒板でやってみるだけでなく、教師の手元をオンラインで、生徒機で見られるようにした。</p> <p>作図は、自分で答え合わせをする際にも、数学に苦手意識がある生徒は、実際にどのように作図をするのか、答えを見ても分からない場合が多い。そのため、動画を撮りclassroomを使って、いつでも作図の方法が見られるようにした。移動に関しても同様で、どのように移動するのか分からない生徒も多かったため、動画を作成し、同様の方法で生徒と共有した。</p>
生徒の反応	<p>・数学が苦手な生徒だけでなく、作図や図形の移動に自信がある生徒も、一度自分の目で合っているかを確認する姿が見られた。</p> <p>・授業以外の時間にも、移動や作図の問題に取り組んだり、仲間に教えたりする姿が増えた。</p> <p>・黒板で見ているときももちろん集中しているが、自分が今困っている問題をリアルタイムで見ることができ、また、同じように三角定規やコンパスを使っている姿を見ることで、できるようになった生徒が増えたように感じる。</p>
振り返り	<p>・手元をリアルタイムで映しているときには、どうしても手が影になって見えづらくなってしまいうことも多くあった。</p> <p>・聞き逃したり、操作が遅かったりすると、そこから手が止まってしまう生徒が多いが、動画を送ったことで、遅れても取り組もうとする生徒が多くいた。</p> <p>・動画はどうしても容量が大きくなってしまい、なかなか見られない生徒もいた。</p> <p>・平行線をかくことに苦手意識のある生徒が多かったが、平行移動ができるようになった。黒板でやることも大切だが、実際に自分と同じ三角定規で、同じプリントにやっている映像を見ることも大切であると分かった。</p>

